

食を通じて子ども支援

八学短大が「子ども食堂」

2月まで月2回開催

八戸

八戸学院短期大学ライフデザイン学科の佐藤千恵子教授と同教授のゼミの学生3人が今月から、子どもへの貧困対策の受け皿として全国で広がる「子ども食堂」を、八戸市内で始めた。来年度2月まで月2回開催し、さまざまな困難を抱えた子どもたちに、食を通じてできる支援や居場所づくりのあり方を探る。

(新村菜穂)

初回の15日は市中心街に「アム「はっち」内の「きたある八戸ポータルミュージ「むら食堂」(村田文字店主)



子ども食堂で提供するおにぎりを作る学生たち

が会場となった。高校生まで無料、一般市民は300円で利用可能で、開催を聞いて訪れた人や、館内で当日、佐藤教授から声を掛けられた子どもなど、さまざまな世代の人が集まった。初対面ながら、テーブルを囲んで和やかに談笑。佐藤教授は「良い雰囲気」と会場を見回した。

ゼミ生が村田さんの調理を手伝い、豚汁、おにぎり、柿を提供。佐京みづきさん(2年)は「家庭の事情を直接変えることはできないけれど、食事をしながら会話を楽しんで、少しでも元気になってくれたら」と話した。

食育などを学ぶ佐藤ゼミ

では本年度、子どもの貧困について調べ、他県の子ども食堂を訪問。各地の事例を参考に子どもたちに気兼ねなく来てもらいたいと、きたむら食堂では誰でも利用でき、交流できる場所として開催する形をとった。

佐藤教授は「さまざまな世代が集まり、食事を通じて交流が生まれることが大切。今回の取り組みを見て自分たちも子ども食堂をやりたいという人が出てきてほしい」と話す。

同市柏崎の「あおは食堂」でも12月10日、子どもの保護者グループと協力して開催する予定。佐藤教授は「地域に合った子ども食堂の形を探りたい」と話している。あおは食堂は第1土曜日正午から午後2時、きたむら食堂が第3火曜日午後5時から午後7時。限定20食、事前申し込み優先。問い合わせ・申し込みは佐藤教授(Eメール chisato@jc.hachinohe-u.ac.jp)へ。